

向島子ども・若者の居場所づくり



団体名：向島ユースセンター実行委員会

役職名：向島ユースセンター実行委員会実行委員長

氏名：長澤敦士

本事業の目的と主な取り組み

目的	<p>向島中学校跡地 むかちゅうセンターの活用にあたって、向島地域の子どもや若者のための「居場所」としての機能も持つ場所にする。 ※「居場所」とは・・・ 向島地域の子ども・若者が自らの主体性を発揮し活動することができる「場」という意味における「居場所」</p>
取り組み	<ol style="list-style-type: none">① 小学生学習会／向島ユースセンター② 向島まつりへの模擬店の出店やインラインスケート体験教室の実施など③ 子ども・若者のクラブ活動の促進 <u>←新!</u>

①小学生学習会 / 向島ユースセンター

> 場所

むかちゅうセンター（向島中学校跡地）

※一時利用 A：小学生、一時利用 B・体育館：中高生年代の若者と場所によって利用者のすみわけをした。

※向島ユースセンターについては、マイタウン向島（MJ）を利用することもあった。

> 日時

毎週金曜日 17:00～20:00

※小学生に限り19:00まで。

> 参加者の状況

小学生学習会：13～15人（／週）程度

中高生年代の若者：20人程度（／週）程度



②向島まつりでの体験活動など

> 場所

京都銀行前広場・むかちゅうセンター体育館

> 日時

10月27日（日）10:00～15:00

> 内容

- ①たこ焼きの模擬店の出店：向島ユースセンター実行委員会が中心となって実施。81食売り、16200円の売り上げを出した。
- ②門川新平（個人）さんにご協力をいただき、向島まつりにてインラインスケートの体験教室を実施。

③子ども・若者のクラブ活動の促進←新

向島インラインスケート教室

> 2019年9月以降の実施

2018年度の向島まつりでのインラインスケートのデモンストレーションをした際に、地域の子どもや若者から好評であったことから、門川新平さんにご協力をいただき、むかちゅうセンターにてインラインスケート教室を立ち上げた。

> 主催

門川新平（個人）

> 場所

むかちゅうセンター体育館

> 日時

毎週水曜日 18:00～20:00

> 参加者の状況

子ども10名程度（指導員2名）



③子ども・若者のクラブ活動の促進←新

バスケットボール活動

> 2020年2月以降の実施

> 場所

むかちゅうセンター体育館

> 日時

毎週日曜日 10:00～15:00

> 参加者の状況

15人～30名程度

※主に高校生年代以上の若者



各事業が融合したことで得られたもの

- **小学生学習会・向島ユースセンターは、**

両者が同じ時間、同じ建物内で、すみわけながらも活動していることで、小学生にとっての小学校卒業後の「居場所」（家庭、学校以外の「場」を意味する。）の可視化が可能になった。

- **インラインスケート教室は、**

今年度の向島まつりでもデモンストレーションおよび体験教室を開催し、普段の教室への参加者の募集を行った。それでだけでなく、小学生学習会や向島ユースセンターでの広報によって教室へ参加する子ども・若者もいた。現在、向島地域の子どもや若者の活動の場の1つとして機能している。

- **バスケットボール活動は、**

フィリピンにルーツをもつ人々の日本語教室（主催：京都文教大学（杉本星子））から派生した事業の1つであったが、各事業がむかちゅうセンターで行われていることから向島ユースセンターにてその活動を紹介したところ、向島ユースセンターへの参加者からこの活動につながった若者が10名ほどいた。来年度以降も活動は継続される予定で、むかちゅうセンターでバスケットボール大会の開催等の話も出ている。このように地域の外国にルーツがある若者と当該地域の若者の交流の場にもなっている。

全体としての活動の成果

☆ **むかちゅうセンターの当該地域の子ども・若者のための効果的な利用可能性を提示することができた。**

→ FM845『向島ダイアリー 2 回目』（2020年3月8日放送済み）で事業内容の紹介をするために出演、「向島まちづくりビジョン推進会議」のFacebookページでの各事業についての紹介の掲載、「向島まちづくり通信」（第18号）での各事業の紹介の掲載など。

☆ **向島地域の子ども・若者の地域活動における活動の場を提供することができた。**

→ 向島まつりにおける模擬店の出店やインラインスケート体験教室の実施など。模擬店では、実際に、ユースセンターに来ている若者が販売役として参加した。

☆ **小学生学習会（京都文教大学）、中学生学習会（伏見区社会福祉協議会）、向島ユースセンター実行委員会等が連携することで、これまで以上に多くの向島地域の子ども・若者が多様な活動ができる「場所」が確保された。**

→ ①マイタウン向島（M J）で実施していた時よりも子ども・若者の活動の幅が広がった。（例：インラインスケート教室やバスケットボール活動の発足など）②各事業への参加者の増加など。

今後の展望：残された課題

- 本事業の主な担い手について

本事業は、いわゆる地域外のアクター（「よそ者」）が多い。今年度、当該地域の住民への各事業の「周知」は各アクターが連携することで、十分に行われた。しかし、本事業では、以前から子ども・若者支援の取り組みをしているアクターの連携に重点を置いたことから、地域住民が各事業のアクターとして「参画」する段階には到達できなかったことが課題として挙げられる。今後は、各事業のアクターとして当該地域の住民が参画する場面を作っていくことが求められる。